

キョロロ友の会会員限定「森ゼミ」 富塚研究員が「雪虫」語る 「雪虫しらべ」12月21日(土)～毎月実施



「松之山の雪虫」を紹介する富塚研究員

一般に「雪虫」と言えば、初雪の前に現れるアブラムシの仲間の「綿虫(わたむし)」を指すことが多いが、鈴木牧之が『北越雪譜(1837年)』の中で「雪中の虫」として、ユスリカやカワゲラの仲間を「雪蛆(せつじよ)」という名で紹介していることから「雪虫」は、雪の上で活動する虫のことだと胸を張って言えるのではないか。

代表的な雪虫のユキカロカワゲラ(クロカワゲラ科)は12月に出現して3月にピークを迎え、4月には姿を消す。トビムシの仲間のクロユキノミ、コシジマルトビムシは降雪前から冬期を通じて発生する。これまでにカワゲラ目5種、トビムシ目7種、ハエ目11種、コウチュウ目14種、捕食者でもあるクモの仲間は34種、合計では9目38科57種が確認された。12月と3月は多く、寒い1月2月は少ない。クモの仲間ですしか出てこないのがあるので、身近に未記載種がいる可能性も高い――。

「森ゼミ」に参加者した市内在住の廣田正孝さん(68)は「春先に雪の上にいる虫だけが雪虫と誤っているだけで、今日の話を聞いて、目を向ける対象が広がる思いがした」と話していた。

「森の学校」キョロロの友の会会員を対象に、研究員や会員が話題を提供する「森ゼミ」が毎月開かれている。11月29日(金)は、キョロロ研究員の富塚茂和さん(40)(理学博士)が、2018年から続けてきた「雪虫」調査から分かったことなど約1時間、語った。

――コシジマルトビムシなどトビムシの仲間は、一番原始的な昆虫で翅を獲得する前の昆虫の姿。主に土の中にいるが、雪の上にもたくさん出てくる。

今冬も雪上の昆虫を採集する「雪虫しらべ」が12月21日(土)(10時～12時)から3月まで毎月開かれる。参加費無料。申込み・問い合わせは「森の学校」キョロロTel.025(595)8311へ。

「森の学校」キョロロの友の会会員を対象に、研究員や会員が話題を提供する「森ゼミ」が毎月開かれている。11月29日(金)は、キョロロ研究員の富塚茂和さん(40)(理学博士)が、2018年から続けてきた「雪虫」